

祝成人おめでとう

祝成人おめでとう

和水町の新成人！
対象年齢…平成13年度生まれ
該当人数…76人
(内、菊水地区41人
三加和地区35人)



(三加和地区)



(菊水地区)

二十歳の門出に大人への誓い。 2022 和水町 成人式

1月4日(火)、三加和公民館で、令和4年和水町成人式を開催しました。

新型コロナウイルス感染症防止の観点から、式典中のマスク着用や座席間隔の確保、式典時間の短縮、入場者制限など、感染症対策を徹底した上での開催となりました。会場には、華やかな晴れ着姿の新成人56人(新成人対象者76人)が集まり、久しぶりに会う友人たちとお互いの晴れ姿を写真に収める姿や、思い出話に花を咲かせている姿が見られ、笑顔が溢れるひとときとなりました。

式典では、高巢町長、岡本教育長、蒲池町議会議長から新成人者へ、温かいお祝いのメッセージが送られ、新成人者意見発表では、新成人を代表して、竹下大貴さん(板橋東)と一森聖史さん(本村)が、新成人としての決意やお世話になった人々への感謝、和水町への思いなどを発表しました。

大人の一步を踏み出した新成人の皆さんの今後益々のご活躍を期待しています。

新成人者意見発表

竹下 大貴さん



こうして成人の節目を迎え、この20年を振り返ってみますと、あつという間だったと感じます。しかしながら、将来に向け、真剣に悩み、そして、何事にも全力で取り組んだ、そんな濃密な20年でした。そのどれもが、今の私を形作る大切な経験だったと実感しております。

中学を卒業し、私たちの中には、大学や専門学校で勉学に励む人、就職し仕事に奮闘している人など、さまざまです。道は違っても、それぞれが自分の行動に責任を持ち、大人になるための覚悟を持って、日々邁進していると思います。

そんな私たちが、新型コロナウイルス感染症の影響で、思い描いた生活ができずに、先の見えない不安とともに過ごしてきました。私自身、大学に入学した矢先、講義は全て遠隔形式、サークル活動の禁止、大学祭の中止など、それは想像していた大学生活とはかけ離れたものでした。友達も作ることもできない状況の中で、やはり頼れる人は、ここにいる地元の人であり、こうしてまた故郷和水町で無事に再会できたことを大変うれしく思います。また、大学で出会った友人に故郷を聞かれた際、「金栗四三さん、大河ドラマの！」というだけで認知されるため、和水町のことをもっといろんな人に知ってもらおう！と大学生活をスタートさせた私の夢は、入学した時点で、ほとんど叶っていました。そんな故郷和水町が本当に誇らしく、私の自慢でもあります。

これから先の人生の中で、大きな壁に阻まれたり、苦悩に苛まれたりすることが何度もあると思います。そんなとき、一人の大人として、この町で学んだ「体力・気力・努力」の精神を大切に、力強く進んでいくことを誓います。

私たちは、今日、二十歳という人生の大きな節目を迎えました。まだまだ未熟者です。どうか今後とも、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

(一部抜粋)

新成人者意見発表

一森 聖史さん



成人の節目を迎え、この20年を振り返ると、数えきれない思い出がよみがえります。将来に向け、一人一人が全力で、もがきながら頑張ってきたことでしょ。私も、自分の将来のため、学業、スポーツ、クラブ活動と一心不乱に取り組んできました。

幼稚園、小学校で家族以外の人との関わりを知り、中学校、高校では人の前に立つ責任とその覚悟を持つことの必要性を学びました。そして、今は大学で、社会とはいったい何か、社会で生きる自分は何者なのかを学んでいる途中です。

この学びの人生の中で強く実感したことは、家族、友人、先生方、地域の方々への支えで今の人生があると言えるほど、多くの愛を受け取ってきたことです。私が学業やクラブ活動で頑張っているそばには、必ず、その大切な人たちがいました。私が高校で下宿をすることや、東京の大学への進学を許してくれたことも、両親の理解と支えがあってこそのものでした。今年度、この和水町で行われた聖火リレーで私が最終ランナーを走った時も、応援自粛はされていたものの、和水町の皆さんの声援を受けました。本当にありがとうございました。

さて、昨年度から続く新型コロナウイルスの蔓延により、今も多くの方が影響を受けています。私の場合、大学が1か月の休校を経て、完全オンライン授業に舵を切ったことにより、大学一年目は誰とも会えずに過ごすことになりました。世間一般のキャンパスライフというものを微塵も味わえずに過ごすことになりました。しかし、それを嘆いても時間は待つてはくれません。私たちは、この世界で生き続けるためにはなりません。私たちは、成人を迎えた今、私たちは社会から守られる存在ではなく、社会を守り、守り合う存在になることが求められます。これから私たちに、壁にぶつかり、波に流され、挫折を味わう時がくるでしょう。そんな時には、隣で支えてくれる人が必要です。自分を支えてくれる大事な人を忘れず、そして私が誰かの大事な人となるように、支え合い、愛をもって生きていきたいと思います。

(一部抜粋)

